

2025.2
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とみ やく 富 薬

2号

第47巻
No.427



ニュウコウジュ *Boswellia cartei* Birdw. (カンラン科 *Burseraceae*)

生 薬 ニュウコウ（乳香）春または夏、幹の下から上へ切り傷をつけ浸出してくる樹脂が固まってから採取する。淡黄色、半透明で芳香のあるものが良品。

成 分 α -, β -boswellic acid, olibanoresene、ガム質：arabic acidのCa, Mg塩、精油：pinene, dipentene, α -, β -phellandrene等。

効 能 鎮痛、消炎薬として腹痛、月経痛、打撲傷、筋肉痛、皮膚化膿症に用いる。古来より宗教儀式に欠かせない焚香料。精油を香水としても使う。



生薬 ニュウコウ

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



アラビア半島、オマーンのドファール、ソコトラ島、アフリカのエチオピア、ソマリアなどアラビア半島からトルコにかけて分布し、乾燥地帯に多く見られる常緑小高木で、高さ4-6mになります。樹の幹は太く頑丈、樹皮はなめらかで淡黄褐色。葉は互生し、密集または上部に疎性し、奇数羽状複葉、長さ15-25cm、葉柄は白毛に覆われています。小葉は7-10対、対生し、無柄、基部のものは小さく、上に行くにつれて大きくなります。小葉身は長卵形、先端は鈍形、基部は円形、全縁。両面を白い毛が覆っているかまたは表面は無毛。花期は4月、花は小さく、淡黄色、まばらな総状花を開きます。花弁は5枚、淡黄色、卵形、先端は急に尖ります。核果は倒卵形、長さ約1cm程、3稜あり、果皮は多肉質、肥厚し、各室に種子1個が入っています。同属植物に、最も上質な乳香とされる*B.sacra*やインド乳香(*B.serrata*)があります。

古代エジプトでは紀元前40世紀のエジプトの墳墓から埋葬品として発掘されており、神に捧げる神聖な焚香料として用いられていました。エジプトの最も古い記録は第五王朝(BC2498-2345)、第六王朝(BC2345-2185)のもので、「最もよく知られ、重要な香料の原料はニューコウとミルラである」とあり、神聖な香料であったことが伺えます。古代エジプトの医学書『エバース・バピルス』(BC1550)には淋病の薬、膿の出る耳に、体臭の除去、肌に刺さった棘をとる薬に配合されることが記されています。9世紀に著された『アラビアン・ナイト』の「アリババと四十人の盗賊」に「発見した洞窟の一番奥の室に丁香(チョウジノキ*Syzygium aromaticum*)や麝香(ジャコウジカの香囊)、乳香、サフラン(*Crocus sativus*)などが高貴な芳香を立ち上らせていた」と記され、アラビアにおいても貴重な香料であったことが分かります。

『旧約聖書』のエレミア書(BC600頃?)の51章8節には「バビロンはたちまち倒れて破れた。これがために嘆け。その傷のために乳香を取れ。あるいは、癒えるかも知れない」と傷薬として用いられていました。また『新約聖書』ではキリスト誕生にまつわる記述として「占星術の学者達は家に入って、母マリヤのそばにいる幼な子に会い、ひれ伏して拝み、また、宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた」と宝の一つに乳香を充てています。

ローマのプリニウス(23-79)の『博物誌』には採取法が詳しく説明されています。「年に二回収穫する。一回目の自然にかなった取り入れはシリウスの昇る頃(七月下旬)、夏の暑さのいちばんきびしい時期に行われる。とくに種皮が樹液をはらんで最も薄くなり膨張しているように見えるところに、切り口をつけるこの箇所を一撃すると樹皮は口を開くが、はがれない。ここからねばねばする泡がほとぼしり出る。この泡が濃くなって固まる」と言っています。

ギリシアのディオスコリデス(40-90)の『薬物誌』には薬効が詳しく記されています。「緩め、収斂させ、瞳を暗化させるようなものをきれいに取り除き、潰瘍のえぐれた傷を再生組織で充填して痂皮化させる作用にある。また出血性の傷を癒着させ、すべての種類の下血と脳膜出血を抑制する効能もある。さらに細かく砕いて、乳に浸した綿布につけて外用すれば、肛門付近や他の部分の悪性腫瘍を軽減する作用がある。酢およびピッチに混ぜて塗れば、第一にミルメシアと呼ばれる腫瘍に、さらに膿痂疹もきれいに治す」など、様々な使い方が記されています。(村上守一 記)